

【梁紀十四】 起著雍敦牂，盡閼逢困敦，凡七年。

■梁、●西魏、**東魏**東魏、続国訳漢文大成 經子史部 第9卷 163p

高祖武皇帝+四大同四年（戊午，538年）

■春，正月，辛酉（57-57+1=1日）朔，日に之を食する有り。

東魏 **江蘇省で巨象を捕る** 東魏の碭郡（孝昌二年に置く、下邑城に治す、徐州に属す。江蘇省徐海道碭山県の東、現・宿州市碭山県）は巨象を獲り、鄴に送る。丁卯（3+60-57+1=7日），大赦し，改元して元象とする。

■二月，己亥（35-26+1=10日），上は藉田を耕す。

東魏● **南汾潁豫廣四州は東魏に入る** 東魏の大都督の善無の賀拔仁は魏の南汾州を攻め，刺史の韋子粲は之に降り，丞相の泰は子粲之族を滅す。東魏の大行台の侯景等は兵を虎牢に治し，將に河南の諸州を復せんとし，魏の梁回（潁川に在り）、韋孝寛（汝南に在り）、趙繼宗（城名は不明）は皆な城を棄てて西に歸る。侯景は廣州（襄城に治す、河南省開封道襄城縣、現・許昌市襄城縣）を攻め，數旬にして，未だ拔かず，魏の救兵が將に至らんとするを聞き，諸將を集めて之を議し，行洛州事の盧勇は進みて形勢を觀るを請う。乃ち百騎を帥いて大隗山（河南省開封道密縣、現・鄭州市新密市）に至り，魏の師に遇う。日は已に暮れ，(9-164p) 勇は多く幡旗を樹顛に置く。夜，騎を分けて十隊と為し，角を鳴らして直ちに前み，魏の儀同三司の程華を擒とし，儀同三司の王征蠻を斬り而して還る。廣州の守將の駱超は遂に城を以て東魏に降り，丞相の歡は勇を以て廣州の事を行わしむ。勇は，辯（西魏に事え、盧勇は東魏に事える）之從弟也。是に於いて南汾、潁、豫、廣四州は復た東魏に入る。

【魏は柔然と婚姻】

柔然●**東魏** **柔然の頭兵可汗は魏と婚姻策** 東魏の初め，柔然の頭兵可汗は始めて（事は149卷普通二年にあり）國に返るを得，魏に事えて禮を盡くす。永安以後に及び，北方に雄據し，禮は漸く驕倨なり，信使は絶えずと雖も，復た臣と稱せず。頭兵は嘗て洛陽に至り，心は中國を慕い，乃ち侍中、黃門等の官を置く。後に魏の汝陽王の典簽の淳於覃を得て，親寵して事を任じ，以て秘書監と為し，文翰を典^{つかさど}ら使む。兩魏の分裂するに及び，頭兵は轉た不遜にして，數々邊患を為す。魏の丞相の泰は新たに關中を都とし，方に山東に事有るを以て，婚を結び以て之を撫せんと欲し，舍人の元翌の女を以て化政公主と為し，頭兵の弟の塔寒に妻あわす。又た魏主に言つて，乙弗后（前卷大同元年にあり）を廢し，頭兵之女を納れんと請う。甲辰（40-26+1=15日），乙弗の後を以て尼と為し，扶風王の孚をして頭兵の女を迎え使めて后と為し。頭兵は遂に東魏の使者の元整を留めて，其の使いに報じず。

東魏三月，辛酉（57-56+1=2日），東魏の丞相の歡は沙苑之敗（前卷前年にあり）を以て，大丞相を解かんと請う，詔して之を許す。之頃して，故に復す。

柔然● **柔然は東面、魏は南面** 柔然は悼后（郁久閭後の諡）を魏に送り，車は七百乘、馬は萬匹、駝は二千頭。黑鹽池（唐の鹽州五原縣に烏池・白池有り、烏池は蓋し即ち黑鹽池なり。なお五原に白鹽池あり、鹽池は寧夏道鹽池縣・現吳忠市鹽池縣にあり。五原縣は甘肅省寧夏道靈武縣の東南にあり、現・バヤンノール市五原縣）に至り，魏の遣わす所の鹵簿儀衛に遇う。柔然の營幕，戸席は皆な東に向かい，扶風王の孚は南面に正さんと請い，后は曰く、「我は未だ魏主を見ず，固より柔然の女也。魏仗は南面せよ，我は自ら東に向かわん。」

丙子（12+60-56+1=17日）、皇后の郁久の閭氏を立てる。丁丑（13+60-56+1=18日）、大赦す。王盟を以て司徒と為す。丞相の泰は長安に朝し、還りて華州に屯す。

東魏■夏，四月，庚寅（26-25+1=2日），東魏の高歡は鄴に朝す。壬辰（28-25+1=4日），晉陽に還る。

東魏■五月，甲戌（10+60-55+1=16日），東魏は兼散騎常侍の鄭伯猷を遣わして來聘す。

東魏■秋，七月，東魏の荊州刺史の王則は淮南（これは光城・弋陽の地をいう、淮水の上流の南。古の淮難郡治壽春の淮南に非ず）を寇す。

■癸亥（59-54+1=6日），詔して東冶の徒の李胤之が如來（仏）の捨利を得るを以て，大赦す。

【洛陽の邙山之戦い、東魏西魏激突】

東魏●「東魏は洛陽を囲み、魏主は引き返す」東魏の侯景、高敖曹等は魏の獨孤信を金墉に囲み、太師の歡は大軍を帥いて之に繼ぐ。景は悉く洛陽の内外の官寺民居を焼き、存する者は什に二三のみ。魏主は將に洛陽に如きて園陵（魏の孝文帝が洛陽に遷都以後、光武帝が西に遷る以前に、みな洛陽にあり）を拜せんとし、會々信等は急を告げ、遂に丞相の泰と俱に東し、尚書左僕射の周惠達に命じて太子の欽を輔けて長安を守らしめ、開府儀同三司の李弼、車騎大將軍の達奚武は千騎を帥いて前驅と為さしむ。

東魏●「東西激突、莫多婁貸文は敗死」八月，庚寅（26-24+1=3日），丞相の泰は穀城（河南郡にあり、河南省河洛道新安県、現・三門峽市義馬市）に至り、侯景等は陳を整えて以て其の至るを待たんと欲す、（9-165p）儀同三司の太安の莫多婁貸文は所部を帥いて其の前鋒を撃たんと請い、景等は固く之を止める。貸文は勇に而して専らに、命を受けず、可朱渾道元と千騎を以て前進す。夜、李弼、達奚武に孝水（河南省河洛道新安県、現・三門峽市義馬市）に遇う。弼は軍士に命じて鼓噪し、柴を曳きて塵を揚げしめ、貸文は走り、弼は追いて之を斬り、道元は單騎にして免かるるを獲たり、悉く其の衆を俘として恆農に送る。

東魏●「宇文泰は敵中に取り残され、李穆の機転」泰は進みて瀘東（瀘水は河南省河洛道孟津県の西北任家嶺に出で、南流して湯陰県を經、東して洛水に入る）に軍し、侯景等は夜圍みを解いて去る。辛卯（27-24+1=4日），泰は輕騎を帥いて景を追いて河上に至り、景は陳を為り、北に河橋に據り、南は邙山に屬し、泰と合戦す。泰の馬は流矢に中り驚いて逸し、遂に之く所を失う。泰は地に墜ち、東魏兵は之を追及し、左右は皆な散り、都督の李穆は馬を下り、策を以て泰の背を扶ちて罵りて曰く、（別に主君がいるように欺く）

「籠東（龍鍾なり）の軍士！爾が曹の主は何くに在るや、而るに獨り此に留まるや？」
追う者は其の貴人なるを疑わず、之を捨て而して過ぎる。穆は馬を以て泰に授け、之と俱に逸れる。

東魏●「東魏の高敖曹は追手に首を斬られる」魏兵は復た振い、東魏の兵を撃ち、大いに之を破り、東魏の兵は北に走る。京兆の忠武公の高敖曹は、意は泰を輕んじ、旗蓋を建てて以て陳を陵ぎ、魏人は銳を盡くして之を攻め、一軍は皆な没し、敖曹は單騎にして走りて河陽の南城（河橋の南にあり、北は北中城）に投ず。守將の北豫州刺史の高永樂は、歡之從祖兄の子也、敖曹と怨有り、閉門して受けず。敖曹は仰ぎ呼び繩を求めも、得ず、拔刀して闔（門扉）を穿ち未だ徹せざるに而して追う兵は至る。敖曹は橋下に伏し、追う者は其の從奴が金帶を持つを見、敖曹の所在を問い、奴は之を指示す。敖曹は免れざるを知る、頭を奮いて曰く、

「來たれ！汝に開國公（高敖曹の首を得れば、西魏は將に開國を以てこれを賞するをいう）を與えん。」

追う者は其の首を斬りて去る。高歡は之を聞き、肝膽を喪うが如し、高永樂を杖つこと二百、敖曹に太師、大司馬、太尉を贈る。泰は敖曹を殺す者に布絹萬段を賞し、歲歲に稍く之を與える、周（西魏の後の北周）の亡びるに及ぶ比おい、猶ほ未だ足る能わず。魏は又た東魏の西兗州刺史の宋顯等を殺し、甲士萬五千人を

虜とし、河に赴きて死する者は萬を以て數える。

東魏●**〔万俟普尊老〕**初め、歡は万俟普尊老（爵尊くして年老いる）を以て、特に之を禮し、嘗て親ら扶けて馬に上らしむ。其の子の洛は冠を免ぎて稽首して曰く、

「願わくは死力を出して以て深恩に報いん。」

邙山之戦いに及び、諸軍は北に橋を度り、洛は獨り兵を勒して動かず、魏人は謂って曰く、

「万俟受洛干は此に在り、能く來たれば來る可き也！」

魏人は之を畏れ而して去り、歡は其の營する所の地を名づけて回洛と為す。

東魏●**〔兩軍疲労困憊するも西魏は洛陽を保つ〕**是の日、東、西の魏は陳を置くこと既に大にして、首尾は懸遠し、且より未に至るまで、戦うこと數十合、氛霧（ふんむ）（悪氣）は四もに塞がり、能く相い知る莫し。魏の獨孤信、李遠は右に居り、趙貴、怡峰は左に居り、戦い並びて利あらず。又た未だ魏主及び丞相の泰の所在を知らず、皆な其の卒を棄てて先ず歸る。開府儀同三司の李虎、念賢等は後軍と為り、(9-166p) 信等の退くを見、即ち與に俱に去る。泰は是に由りて營を燒き而して歸り、儀同三司の長孫子彥を留めて金墉を守らしむ。

●**〔王思政は破衣弊甲で命を全くす〕**王思政は馬を下り、長槊を舉げて左右横撃し、一舉に輒ち數人を踏す。陳を陷すこと既に深く、從者は盡く死し、思政は重創を被り、悶絶す。會々日は暮れ、敵も亦た兵を收める。思政は戦う毎に常に破衣弊甲を著る、敵は其の將帥なるを知らず、故に免るるを得たり。帳下督の雷五安は戦處に於いて哭して思政を求め、其の已に蘇えるに會い、衣を割きて創を裹み、思政を扶けて馬に上らす。夜久しくして、始めて營に還るを得たり。

●**〔蔡祐は下馬して弓で戦う〕**平東將軍の蔡祐は馬を下りて歩いて鬥い、左右は馬に乗りて以て倉猝に備えるを勧め（万一逃げるときのために）、祐は怒りて曰く、

「丞相は我を愛すること子の如し、今日豈に生を惜しまん乎！」

左右十餘人を帥いて聲を合わせて大呼し、東魏の兵を撃ち、殺傷すること甚だ衆し。東魏の人は之を圍むこと十餘重、祐は弓を彎きて滿を持し、四面に之を拒ぐ。東魏の人は厚甲長刀の者を募り直ちに進みて之を取らしめ、祐を去ること三十歩可り、左右は之を射るを勧め、祐は曰く、

「吾が曹之命は、此の一矢に在り、豈に虚しく發す可けんや！」

將に十歩に至らんとし、祐は乃ち之を射て、弦に應じ而して倒れ、東魏の兵は稍卻き、祐は徐に引いて還る。

●**〔宇文泰は蔡祐の股で安眠〕**魏主は恆農に至り、守將は已に城を棄てて走り、虜する所の降卒の恆農に在る者は相い與に閉門して拒ぎ守り、丞相の泰は攻めて之を抜き、其の魁首數百人を誅す。蔡祐は追いて泰を恆農に及び、夜、泰を見、泰は曰く、

「承先（蔡祐の字）、爾は來たる、吾は憂い無し矣。」

泰は驚いて（流石の宇文泰も動転していた）寝ねるを得ず、祐の股を枕として、然る後に安んず。祐は毎に泰に従いて戦い、常に士卒の先と為る。戦いて還るや、諸將は皆な功を争うも、祐は終に言う所無し。泰は毎に歎じて曰く、

「承先は口では勳を言わず、我は當に其に代わりて論敘すべし。」

泰は王思政を留めて恆農に鎮せしめ、侍中、東道行台に除す。

【關中の動揺】

● **〔沙苑の東魏の降卒の關中叛乱〕** 魏之東伐する也、關中の留守の兵は少なく、前後に虜する所の東魏の士卒は民間に散在し、魏兵の敗れるを聞き、亂を作さんと謀る。李虎等は長安に至り、計は出る所無し、太尉の王盟、僕射の周惠達等と太子の欽を奉じて出でて渭北に屯す。百姓は互いに相い剽掠し、關中は大いに擾る。是に於いて沙苑に虜とする所の東魏の都督の趙青雀、雍州民の於伏德等は遂に反し、青雀は長安の子城に據り、伏德は咸陽を保ち、咸陽（魏は咸陽郡を石安县に置く、漢の渭城県で秦の咸陽）太守の慕容思慶と各々降卒（東魏の捕虜の散じて民間に居る者）を収めて以て還る兵（西魏の洛陽より帰る兵）を拒む。長安の大城の民は相い帥いて以て青雀を拒み、日々に之と戦う。大都督の侯莫陳順は賊を撃ち、屢々之を破り、賊は敢えて出でず。順は、崇之兄也。

● **〔王熙の覚悟に皆感動〕** 扶風公の王熙は河東に鎮し、大いに城門を開き、悉く軍士を召して謂って曰く、

「今大軍は利を失い、青雀が亂を作り、諸人は固志有る莫きを聞く。王熙は委を此に受け、死を以て恩に報いん。能く同心する者有れば共に固守す可し。必ず城の陷ちるを恐れれば、自ら城を出づるに任せん。」衆は其の言に感じ、(9-167p) 皆な異志無し。

● **〔宇文泰は咸陽と長安の賊を攻め破る〕** 魏主は閭郷に留まる。丞相の泰は士馬の疲弊し、速かに進む可からざるを以て、且つ青雀等は烏合にして、患を為す能わずと謂い、曰く、

「我は長安に至り、輕騎を以て之に臨み、必ず當に面縛せん。」

通直散騎常侍の吳郡の陸通（元は吳人、曾祖の載は宋の武帝に従いて關中に入り、劉義真の敗れるに及びて赫連に没し、遂に關中に留まる）は諫めて曰く、

「賊の逆謀は久しく定まり、必ず善に遷る之心無し。蜂蠆（^{ほうたい}蜂とサソリ）毒有り、安んぞ輕んず可けん也！且つ賊は東寇（東魏の兵）が將に至らんとすと詐りて言う、今若し輕騎を以て之に臨めば、百姓は信（賊の首を以て信と為す）に然りと為すと謂い、益々當に驚擾すべし。今軍は疲弊すると雖も、精銳は尚ほ多し。明公之威を以て、大軍を總べ以て之に臨めば、何の克たざるを憂えん！」

泰は之に従い、兵を引いて西に入る。父老は泰の至るを見、悲喜せざるは莫く、士女は相い賀す。華州刺史の宇文導は兵を引いて咸陽を襲い、思慶を斬り、伏德を擒とす。南に渭を度り、泰と會して青雀を攻め、之を破る。太保の梁景睿は疾を以て長安に留まり、青雀と通謀し、泰は之を殺す。

東魏 ● **〔高歡は洛陽を攻め、長孫子彥逃走〕** 東魏の太師の歡は晉陽より七千騎を將して孟津に至り、未だ濟らず、魏師の已に循れるを聞き、遂に河を濟り、別將を遣わして魏師を追いて崤（太和 11 年に崤県を置き、恒農郡に属す、三崤山に依りて命名、河南省河洛道洛寧県の北、現・洛陽市洛寧県）に至り、及ばず而して還る。歡は金墉を攻め、長孫子彥は城を棄てて走り、城中の室屋を焚き俱に盡き、歡は金墉を毀し而して還る。

東魏 ● **〔裴讓之の理に、高歡は許す〕** 東魏之鄴に遷る也（156 卷中大通六年）、主客郎中の裴讓之（東魏側）は洛陽に留まる。獨孤信之敗れる也（邙山の戦いで軍を棄てて逃げた事）、讓之の弟の諏之（西魏に亡命）は丞相の泰に隨いて關に入り、大行台の倉曹郎中と為る。歡は讓之の兄弟五人を囚え、讓之は曰く、

「昔諸葛亮兄弟は、吳、蜀に事え各々其の心を盡くす、況んや讓之老母は此に在り、不忠不孝は、必ず為さざる也。明公は誠を推して物を待てば、物も亦た心を歸せん。若し猜忌を用いれば、霸業を去ること遠からん矣。」

歡は皆な之を釋す。

● **九月**、魏主は長安に入り、丞相の泰は還りて華州に屯す。

東魏 東魏の大都督の賀拔仁は邢磨納（前卷前年に兵を起こすあり）、盧仲禮等を撃ち、之を平らぐ。

東魏 **〔盧景裕は高歡の家庭教師、泰然自若〕** 盧景裕は本は儒生なり、太師の歡は之を釋し、召して家に館し、諸子を教え使む。景裕の講論は精微にして、難者は或は相い詆訶（そしる、けなす）し、大聲色を厲し、言は不遜に至る、而も景裕は神采儼然として、風調は一の如く、從容として往復し、際の尋ねる可き無し。性は清靜にして、官を歷ること屢々進退有れども、得失之色無し。弊衣粗食、恬然として自ら安んじ、終日端嚴にして、賓客に對するが如し。

● **東魏** **冬，十月**，魏は高敖曹、竇泰、莫多婁貸文之首を東魏に歸す。

■ **東魏** 散騎常侍の劉孝儀等は東魏に聘す。

● **東魏** **〔西魏は洛陽を奪還〕** **十二月**，魏の是雲寶は洛陽を襲い、東魏の洛州刺史の王元軌は城を棄てて走る。都督の趙剛は廣州を襲い、之を抜く。是に於いて襄（孝昌中に襄州を置く、襄城・舞陰・期城・北南陽・建城郡を領す）、廣より已西の城鎮は復た魏と為る。（9-168p）

● **東魏** **〔戦乱避けて僧尼増加〕** 魏は正光より以後、四方に多事にして、民は賦役を避け、多く僧尼と為り、二百萬人に至り、寺は三萬餘區有り。是に至りて、東魏は始めて詔す、
「牧守、令長の擅に寺を立てる者は、其の功庸を計り、枉法（法をまげる）を以て論ず。」

● **東魏** **〔李延孫は伊洛を澄清〕** 初め、魏の伊川（五代史に河南郡の陸渾県に齊は伊川郡を置き、南陸渾県を領す。春秋の時、秦晉嘗て陸渾の戎を伊川に遷す、故に郡以て名と為すと。伊關以南、大山長谷は蠻多く之に居る。魏は都督を置き以て之を防ぐ。河南省河洛道嵩県の東北、現・洛陽市嵩県）の土豪の李長壽は防蠻都督と為り、功を積みて北華州刺史に至る。孝武帝の西遷するや、長壽は其の徒を帥いて東魏を拒み、魏は長壽を以て廣州刺史と為す。侯景は攻めて其の壁を抜き、之を殺す。其の子の延孫は復た父の兵を收集し以て東魏を拒み、魏之貴臣の廣陵の王欣、錄尚書の長孫稚等は皆な家を攜えて往きて之に依り、延孫は資遣（解雇手当）衛送し、關中に達せ使む。東魏の高歡は之を患い、數々兵を遣わして延孫を攻めしめ、克つ能わず。魏は延孫を以て京南（洛京以南）行台、節度河南諸軍事、廣州刺史と為す。延孫は伊、洛を澄清するを以て己が任と為し、魏は延孫の兵少なきを以て、更に長壽之婿の京兆の韋法保を以て東洛州（西魏の洛州は上洛に治す。洛陽は東洛州とする）刺史と為し、兵數百を配して以て之を助けしむ。法保の名は祐、字を以て行われ、既に至り、延孫と兵を連ねて柵を伏流（伏流城は伊川郡の治所）に置く。獨孤信之洛陽に入る也、宮室を繕修せんと欲し、外兵郎中の天水の權景宣をして徒兵三千を帥いて采運（賊は採運、木を採り運びて洛陽城に入れしむ）に出で使む。會々東魏の兵は至り、河南は皆な叛し、景宣は間道して西に走り、李延孫と相い會し、孔城（天平中に新城郡を置き、孔城に治し、北荊州に屬す。河南省河洛道洛陽県、現・洛陽市洛竜区）を攻め、之を抜き、洛陽以南は尋ぎて亦た西に附く。丞相の泰は即ち景宣を留めて張白塢（宜陽の西北にあり、河南省河洛道宜陽県の西北、現・洛陽市宜陽県）を守り、東南の諸軍の關西に應じる者を節度せしむ。是の歳、延孫は其の長史の楊伯蘭の殺す所と為り、韋法保は即ち兵を引いて延孫之柵に據る。

東魏 ● **〔魏の韋孝寬の策略成功〕** 東魏の將の段琛等は宜陽に據り、陽州（天平の初め、陽州を置き、宜陽・金門郡を領し、宜陽に治す）刺史の牛道恆を遣わして魏の邊民を誘わしむ。魏の南兗州刺史の韋孝寬は之を患い、乃ち詐りて道恆が孝寬に與える書を為りて、歸款之意を論じ、謀人をして之を琛の營に遣さ使む、琛は果たして道恆を疑う。孝寬は其の猜阻に乗りて、兵を出して之を襲い、道恆及び琛を擒とし、崱（崱山）、澗（澗池）は遂に清し。東道行台の王思政は玉壁（山西省河東道稷山県東南 12 里、現・運城市稷山県）の險要なるを以て、築城するを請い、恆農より徙りて之に鎮し、詔して都督汾、晉、并州諸軍事、并州刺史を加え、行台は故の如し。（東西の魏は汾州に於いて險要に據りて界と為し、晉并はみな東魏に入る）

東魏 **〔東魏の人材推薦制度改定〕** 東魏は高澄を以て吏部尚書を攝せしめ、始めて崔亮の年勞之制（崔亮が停年格を制する事は149 卷天監18年にあり）を改め、賢能を銓擢す。又た尚書郎を沙汰し、人地を妙選し以て之を充てる。凡そ才名之士は、未だ薦擢せずと雖も、皆な門下に引致し、之と遊宴し、講論し、詩を賦し、士大夫は是を以て之を稱す。（9-169p）

高祖武皇帝+四大同五年（己未，539年）

■ **〔梁の宰相たち〕** 春，正月，乙卯（51-51+1=1日），尚書左僕射の蕭淵藻を以て中衛將軍と為し、丹楊尹の何敬容を尚書令と為し、吏部尚書の張纘を僕射と為す。纘は、弘策（帝の舅、創業を助ける）之子也。晉、宋より以來、宰相は皆な文義を以て自ら逸す、敬容は獨り簿領を勤め、日^{かたむ} 𦵏くまで休まず、時俗の嗤鄙（笑い鄙しむ）する所と為る。徐勉（大同元年に死す）、周捨（普通五年に死す）が既に卒してより、權要に當たる者は、外朝（三公卿尚書）には則ち何敬容、内省（門下省）には則ち朱異（統は朱異）あり。敬容は質慤（質樸誠実）にして文無く、綱維を以て己が任と為す。異は文華敏洽にして、曲^{つづさ}に世譽を營む。二人の行いは異なり而れども俱に幸を上に得る。異は善く人主の意を伺候して阿諛を為し、事を用いること三十年、廣く貨賂を納れ、視聽を欺罔し、遠近は忿疾せざるは莫し。園宅、玩好、飲膳、聲色は一時之盛を窮む。休下（休沐の日は省中より出て、私第に還るをいう）する毎に、車馬は門に填がり、唯だ王承、王稚及び褚翔のみ往かず。承、稚は、暕（王儉の子、帝は之を用い、官は侍中尚書僕射に至る）之子、翔は、淵（褚淵は蕭齊の佐命）之曾孫也。

■ 丁巳（53-51+1=3日），御史中丞の參禮儀事の賀琛は奏す、

「南、北二郊及び藉田の往還は並びて宜しく輦（人に駕する）に御し、復た輅（馬に駕する）に乗らざるべし。」詔して之に従う、宗廟を祀るに仍って玉輦に乗る。琛は、瑒（儒学の徒）之弟の子也。

東魏 辛酉（57-51+1=7日），東魏は尚書令の孫騰を以て司徒と為す。

■ 辛未（7+60-51+1=17日），上は南郊に祀す。

● **〔魏の学生公務の兼任〕** 魏の丞相の泰は行台に學を置き、丞郎、府佐の德行明敏なる者を取りて學生に充て、悉く旦^{あした}に公務を治め、晩に講習に就か令む。

東魏 **〔東魏の人材登用〕** 東魏の丞相（沙苑の敗での貶から復歸）の歡は、徐州刺史の房謨、廣平太守の羊孰、廣宗太守の竇瑗、平原太守の許惇が政績清能有るを以て、諸刺史に書を與えて、謨等を褒稱し以て之を勸む。

東魏 夏，五月，甲戌（10+60-49+1=22日），東魏は丞相の歡の女を立てて皇后と為す。乙亥（11+60-49+1=23日），大赦す。

● 魏は開府儀同三司の李弼を以て司空と為す。

● 秋，七月，魏は扶風王の孚を以て太尉と為す。

東魏 九月，甲子（60-47+1=14日），東魏は畿内十萬人を發して鄴に城きづき、四十日にして罷む。冬，十月，癸亥（59-17+1=43日?），新宮の成るを以て、大赦し、改元して興和とす。

● 魏は紙筆を陽武門外に置き以て得失を求む。（目安箱）

■ **東魏** 十一月，乙亥（11+60-46+1=25日），東魏は散騎常侍の王元景、魏收をして來聘せ使む。

東魏 **〔興光歷の実施〕** 東魏の人は《正光歷》（149 卷普通三年にあり）の浸^{ようや}く差あるを以て、校書郎の李業興に命じて更に修正を加えしむ、甲子を以て元と為し、號して《興光歷》と曰い、既に成り、之を行ふ。

■ **〔梁の地方州制度と運用〕** 散騎常侍の朱異は奏す、

「頃來州を置くこと稍く廣く、而して小大は倫^{ひと}しからず、請う分けて五品と為し、其の位秩の高卑、參僚（參佐）の多少は、皆な是を以て差と為さん。」

詔して之に従う。是に於いて（9-170p）上品は二十州、次品は十州、次品は八州、次品は二十三州、下品は二十一州。時に上方に征伐を事とし、境宇を恢拓し、北に淮、汝を逾え、東に彭城に距^{いた}り、西に牂柯を開き、南に俚洞（交州廣州の界表に俚人は深險に依阻し各自洞を為す）を平らげ、州郡を建置し、紛綸として甚だ衆し、故に異は之を分かつたんと請う。其の下品は皆な異國之人の來たりて歸附する者にして、徒だに州名有り而して土地無く、或は荒徼之民の居る所の村落に因り州及び郡縣の、刺史守令を置き皆な彼の人（彼の土に就きて土人を以て刺史守令の官に任ずる者）を用いて之と為す、尚書は悉く領す能わず、山川は險遠にして、職貢は通じること罕^{まれ}なり。五品之外に、又た二十餘州有り處所を知らず。凡そ一百七州。又た邊境の鎮戍なるを以て、領民多からずと雖も、其の將帥を重んじんと欲し、皆な建てて郡と為し、或は一人二三郡の太守を領す、州郡は多しと雖も而も戸口は日々に耗る矣。

●〔魏の禮樂の再整備〕 魏は西に遷るより以來、禮樂は散逸し、丞相の泰は左僕射の周惠達、吏部郎中の北海の唐瑾に命じて舊章を損益せしめ、是に至りて稍備わる。

高祖武皇帝+四大同六年（庚申，540年）

東魏 春，正月，壬申（8+60-46+1=23日），東魏は廣平公の庫狄干を以て太保と為す。

東魏 丁丑（13+60-46+1=28日），東魏主は新宮（前卷大同元年に鄴に都を作る）に入り、大赦す。

●魏の扶風王の孚は卒す。

■二月，己亥（35-15+1=21日），上は藉田を耕す。

●魏は五銖錢を鑄る。

東魏 ●〔侯景は荊州復活を試みる〕 東魏の大行台の侯景は三鴉（河南省河洛道魯山縣西南19里、現・平頂山市魯山縣）に出で、將に荊州（大同三年に西魏は沙苑の勝ちに乗じて取る）を復せんとし、魏の丞相の泰は李弼、獨孤信を遣わして各々五千騎を將して武關に出でしめ、景は乃ち還る。

●〔文后に死を賜い麥積崖に葬る〕 魏の文后は既に尼（大同四年に廢して尼とする）と為り、別宮に居り、悼后は猶ほ之を忌み、乃ち其の子の武都王の戊を以て秦州刺史と為し、文后をして隨いて官に之か使む。魏主は限るに大計を以てすと（国事を以て乙弗を廢して柔然の女を立てしを謂う）雖も、而も恩好忘れず、密に發（髪）を養わ令め、追還する之意有り。會々柔然は國を舉げて河を度りて南侵し（靈夏を侵す）、時に頗る、

「柔然は悼后の故を以て師を興す」

と言う者有り、帝は曰く、

「豈に百萬之衆を興すに一女子の為にする有らん邪！然りと雖も、人此の言を致すは、朕は亦た何の顔ありてか以て將帥を見んや！」

乃ち中常侍の曹寵を遣わして手敕を繼いで文后に自盡を賜う。文后は泣いて寵に謂って曰く、

「願わくは至尊千萬歲、天下康寧ならんこと、死すとも恨み無し也！」

遂に自殺す。麥積崖（麥積山石窟寺院、現・甘肃省天水市麦積区麦積山）を鑿ちて而して之を葬し、號して寂陵と曰う。

●柔然 〔柔然侵攻と王罽の氣概〕 夏，丞相の泰は諸軍を召して沙苑に屯し以て柔然に備える。右僕射の周惠達は士馬を發して京城を守り、諸街巷を塹り、雍州刺史の王罽を召して之を議せんとするも、罽は召

に應じず、使者に謂って曰く、(9-171p)

「若し蠕蠕が渭北に至る者ならば、**王羆**は自ら郷里(王羆は京兆の人)を帥いて之を破り、國家の兵馬を煩わさず、何れぞ天子の城中此くの如き驚擾を作すや！**周家**の小兒が恒怯なるに由りて此を致す。」

柔然は夏州に至り而して退く。未だ幾くもならずして、**悼后**は疾に遇いて歿す。

●**東魏** **〔東魏の義州設置〕** **五月**，乙酉(21+60-44+1=38日?)，魏の行台の**宮延和**、陝州刺史の**宮延慶**は東魏に降り、東魏は河北馬場(杜佑通典に、衛州汲郡は古の牧野の地なりと。魏の孝文帝太和17年に代の畜を石済の西に徙す、故に河北の馬場有り。この時義州を置き汲郡陳城に治し、五城・義寧・新安・澠・恒農・宜陽・金門の七僞郡を領す。河南省河北道汲県、現・新郷市衛輝市)を以て義州と為し以て之を處く。

東魏 東魏の陽州武公の高永樂は卒す。

■**閏月**，丁丑(13-13+1=1日)朔，日之を食する有り。

東魏 己丑(25-13+1=13日)，東魏は皇兄の**景植**を封じて宜陽王と為し、皇弟の**威**を清河王と為し、**謙**を潁川王と為す。

東魏 **六月**，壬子(48-43+1=6日)，東魏の華山王の**鸞**(大同二年に東魏は大司馬と為す)は卒す。

■**東魏** **秋，七月**，丁亥(23-12+1=12日)，東魏は兼散騎常侍の**李象**等をして來聘せ使む。**八月**，戊午(54-42+1=13日)，大赦す。

■**九月**，戊戌(34-11+1=24日)，司空の**袁昂**は卒し、遺疏して贈諡を受けず、諸子に敕して行狀(其の平生の行賞を狀し、これを朝に上り以て諡を請う)を上り及び銘志(碑を墓に立てて後に伝える)を立てる勿からしむ。上は許さず、本官を贈り、諡して**穆正公**とす。

●**冬，十一月**，魏の太師の**念賢**は卒す。

吐谷渾 **東魏** **〔吐谷渾は東魏に遣使〕** 吐谷渾は**莫折念生**之亂より、魏に通じず。**伏連籌**が卒し、子の**誇呂**は立ち、始めて可汗を稱し、伏俟城(青海の西)に居る。其の地は東西三千里、南北千餘里、官は王、公、僕射、尚書、郎中、將軍之號有り。是の歲、始めて遣使して道を柔然に假り、東魏に聘す。

高祖武皇帝+四大同七年(辛酉，541年)

■**春，正月**，辛巳(17-9+1=9日)，上は南郊に祀し、大赦す。辛丑(37-9+1=29日)，明堂に祀る。

■宕昌王の**梁企定**(続は梁企定)は其の下の殺す所と為り、弟の**彌定**は立つ。**二月**，乙巳(41-39+1=3日)，**彌定**を以て河、梁二州刺史、宕昌王と為す。

■辛亥(47-39+1=9日)，上は藉田を耕す。

●魏の幽州(西魏に幽州無し、幽州の間違い)刺史の順陽王の**仲景**(元仲景は西河王元太興の、孝莊帝のとき、御史中尉をつとめ、仲景の処断によって洛陽は肅然とした。宮廷に向かうたびに、赤牛の牛車に乗っていたため、当時の人は「赤牛中尉」と呼んだ)は事に坐し死を賜う。

●**三月**，魏の夏州刺史の**劉平伏**は上郡(東夏州に属す、石門・囚城県を領す。陝西省榆林道膚施県、現・延安市宝塔区)に據りて反し、大都督の**於謹**は討ちて之を擒とす。

■**東魏** **夏，五月**，兼散騎常侍の**明少遐**等を遣わして東魏に聘す。

東魏 **秋，七月**，己卯(15-7+1=9日)，東魏の宜陽王の**景植**(孝文帝の曾孫、清河文宣王元亶之子)は卒す。

●**〔宇文測は汾州をよく守る〕** 魏は侍中の**宇文測**を以て大都督と為し、汾州(山西省河東道汾陽県に治す、現・呂梁市汾陽市)の事を行わしむ。**測**は、**深**之兄也、政を為すに簡惠にして、(9-172p)士民の心を得たり。地

は東魏に接し、東魏人は數々來りて寇抄し、**測**は之を擒獲し、命じて縛を解かしめ、引いて與に相い見て、
為に酒榖を設け、待するに客禮を以てし、並せて糧餼を給し、衛送して境を出でしむ。東魏人は大いに慚
じ、復て寇を為さず、汾、晉之間は遂に慶吊（続は慶弔）を通じ、時論は之を稱す。或はく

「**測**は境外に交通する」

と告げる者あり、丞相の**泰**は怒りて曰く、

「**測**は私の為に安邊を安んじる、我は其の志を知る、何ぞ我が骨肉を問するを得ん！」

命じて之を斬らしむ。

●【**蘇綽の六條の詔書は官吏必須**】魏の丞相の**泰**は時政を革易し、強國富民之法を為さんと欲し、大行台の度支尚書兼司農卿の**蘇綽**は其の智能を盡くして、其の事に賛成し、官員を減じ、二長を置き、並せて屯田を置き以て軍國に資す。又た六條の詔書を為り、**九月**、始めて奏して之を行う。一に曰く心を清くし、二に曰く教化を敦くし、三に曰く地の利を盡くし、四に曰く賢良を擢んじ、五に曰く獄訟を恤み、六に曰く賦役を均しくすと。**泰**は甚だ之を重んじ、常（嘗×）に諸を坐右に置き、又た百司をして之を習誦せ令む、其の牧守令長の六條及び計帳（前卷大同四年にあり）に通じるに非ざる者は、官に居るを得ず。

■**東魏**東魏は群官に詔して麟趾閣に於いて法制を議定せしめ、之を《麟趾格》と謂い、**冬、十月**、甲寅（50-35+1=16日）、之を頒行す。

■**東魏**乙巳（41-35+1=7日）、東魏は夫五萬を發して漳濱堰を築くも、三十五日にして罷む。

■**東魏****十一月**、丙戌（22-5+1=18日）、東魏は彭城王の**韶**を以て太尉と為し、度支尚書の**胡僧敬**を司空と為す。**僧敬**は名は**虔**、字を以て行い、**國珍**（靈後の父）之兄の孫なり、**東魏主**之舅也。

■**東魏****十二月**、東魏は兼散騎常侍の**李騫**を遣わして來聘す。

■【**交趾の李賁の討伐**】交趾の**李賁**は世々豪右^{たう}為り、仕えて志を得ず。**並韶**という者有り、詞藻（言葉のあや。修辭）に富み、選に詣りて官を求め、吏部尚書の**蔡撙**は**並姓**には前賢無きを以て、廣陽門（建康城の西面南頭の第一門）郎に除す。**韶**は之を恥じる。**賁**は**韶**と郷里に還り、亂を作さんと謀り、會々交州刺史の**武林の侯咨**は刻暴を以て衆心を失い、時に**賁**は德州（五代志に南郡に梁は德州を置くと）に監たり、因りて數州の豪傑に連結して俱に反す。**咨**は賄を**賁**に輸^{おく}り、奔りて廣州に還る。**上**は**咨**を遣わして高州（五代志に、梁の大通中に番州の合浦県を割きて高州を立つ。隋の海康県の界に在り。端州の新興県に梁は新州を立てると。海康県は広東省高雷道海康県、現・湛江市雷州市、新興県は広東省粵海道新興県、現・雲浮市管轄新興縣新城鎮）刺史の**孫問**、新州刺史の**盧子雄**と兵を將いて之を撃たしむ。**咨**は、**恢**（梁皇帝の弟）之子也。

●是の歳、魏は又た新制十二條を益す。（宇文泰は既に24條を行う、新調という）

【東魏の制度經濟充実】

■**東魏**東魏の丞相の**歡**は諸州の調絹が舊式に依らず、民は甚だ之を苦しむを以て、奏して悉く四十尺を以て匹と為さ令む。

■**東魏**【**高歡は物流と塩生産で軍國の費を出す**】魏は喪亂（孝昌帝の時）より以來、農商は業を失い、六鎮之民は相い帥いて内に徙り、食に齊、晉に就き、**(9-173p)** **歡**は之に因りて以て霸業を為す（155 卷中大通三年四年にあり）。東西は分裂し、連年戦争し、河南の州郡は鞠まりて茂草と為り（この句は詩經小弁の詩に、蹶蹶たる周道鞠まりて茂草となる、にもとづく）、公私は困竭し、民は多く餓死す。**歡**は諸州に命じ濱河及び津（河港）、梁（橋を造り往來す）に皆な倉を置き穀を積み以て相い轉漕し、軍旅に供し、饑饉に備える。又た幽、瀛、滄、青四

州に於いて海に傍いて鹽を煮。軍國之費は、粗ぼ周贍するを得たり。是に至り、東方は連歲大いに稔り、穀は斛に九錢に至り、山東之民は稍く復た甦息（続は蘇息）す矣。

東魏 **〔高澄の第は贈答で溢れる〕** 東魏の尚書令の**高澄**は**靜帝**の妹の**馮翊長公主**に尚し、子の**孝琬**を生み、朝貴は之を賀し、**澄**は曰く、

「此れ**至尊**之甥なり、先ず**至尊**に賀せよ。」

三日にして、**帝**は其の第に幸し、賜わるに錦彩布絹萬匹。是に於いて諸貴は競いて禮遺を致し、貨は十室に滿つ。

東魏 **〔東魏の孝友の上表ならず〕** 東魏の臨淮王の**孝友**（元孝友は北魏太武帝の玄孫）は表して曰く、

「令に百家を制して族と為し、二十五家を閭りよと為し、五家を比と為す。百家之内に帥二十五有り、征發（続は徵發）皆な免じ、苦樂は均しからず、羊少く狼多く（狼をして羊を將いしめば、羊多しと雖も終に狼の喰らう所となる。況んや羊少なくて狼多きをや。族帥は閭帥を侵漁し、閭帥は比帥を侵漁し、比帥は又その領する所の四家を侵漁するに喩える）、復た蠶食する有り、此之弊為ること久し矣。京邑の諸坊は、或は七八百家、唯だ一里正、二史にして、庶事闕ける無し、而るに況んや外州を乎！請う依舊に依り三正（李冲が建議して置く所の三長）之名を置きて改めず、而して閭毎に止だ二比と為す、計るに族ごとに十二丁を省き、貲絹（貲を計りて絹を輸する）、番兵、益す所甚だ多し。」

事は尚書に下され、寢みて行われず。

■安成の望族の**劉敬躬**は妖術を以て衆を惑わし、人は多く之を信じる。

高祖武皇帝+四大同八年（壬戌，542年）

■ **〔敬躬の乱の討伐〕** **春，正月**，**敬躬**は郡に據りて反し、改元して永漢とし、官屬を署し、進みて廬陵を攻め、豫章に逼る。南方は久しく兵を習わず、人情は擾駭し、豫章内史の**張綰**は兵を募りて以て之を拒ぐ。**綰**は、**纘**之弟也。**二月**，戊戌（34-33+1=2日），江州刺史の湘東王の**繹**（元帝蕭繹、梁第4代皇帝）は司馬の**王僧辯**、中兵の**曹子郢**を遣わして**敬躬**を討ち、**綰**の節度を受ける。**三月**，戊辰（4-3+1=2日），**敬躬**を擒とし、建康に送り、之を斬る。**僧辯**は、**神念**（天監七年に魏より來奔す）之子也、該博辯捷にして、器宇は肅然たり、射は札（甲を編みて櫛の齒の様に相比するをいう）を穿たずと雖も、而も志氣は高遠なり。

●魏は初めて六軍を置く。

東魏 **夏，四月**，丙寅（2+60-32+1=31日?），東魏は兼散騎常侍の**李繪**をして來聘せ使む。**繪**は、**元忠**之從子也。

東魏 **〔高歡は孫騰を免罪す〕** 東魏の丞相の**歡**は鄴に朝す。司徒の**孫騰**は事に坐して免ぜらる。乙酉（五月なら21-2+1=20日），彭城王の**韶**を以て尚書事を録せしめ、侍中の廣陽王の**湛**を太尉と為し、尚書右僕射の**高隆之**を司徒と為す。初め、太傅の**尉景**（152 卷大通二年にあり）は（9-174p）丞相の**歡**と同じく**爾朱榮**に歸し、其の妻は、**歡**之姊也、自ら勳戚を恃み、貪縱不法なり、有司の効する所と為り、獄に繋がる。**歡**は三たび闕に詣りて泣いて請い（これで王の実力を示す）、乃ち死を免るるを得たり。丁亥（五月なら23-2+1=22日），降して驃騎大將軍、開府儀同三司と為す。**歡**は往きて之に造り、**景**は臥して起きず、大いに叫びて曰く、

「我を殺す時趣く邪！」

歡は撫し而して之を拜謝す。辛卯（五月なら27-2+1=26日），**庫狄干**を以て太傅と為し、領軍將軍の**婁**

昭を以て大司馬と為し、封祖裔を尚書右僕射と為す。六月，甲辰（40-31+1=10日），歡は晉陽に還る。
東魏〔侯景を河南道大行台〕八月，庚戌（46-31+1=16日），東魏は開府儀同三司、吏部尚書の侯景を以て兼尚書僕射、河南道大行台と為し、機に隨いて防討せしむ。

【高歡の魏侵攻と一進一退】

●東魏〔高歡の魏侵入と、魏の応戦〕魏は王盟を以て太保と為す。東魏の丞相の歡は魏を撃たんと、汾、絳より入り、營を連ねること四十里、丞相の泰は王思政をして玉壁（山西省河東道稷山縣東南12里、現・運城市稷山縣）を守り以て其の道を斷たせしむ。歡は書を以て思政を招いて曰く、

「若し降れば、當に授けるに并州（高歡は晉陽を根拠地とし、并州は他州より格上）を以てす。」

思政は復書して曰く、

「可朱渾道元は降る（前卷前年にあり）、何を以てか得ざるや？」

冬，十月，己亥（35-30+1=6日），歡は玉壁を圍む、凡そ九日にして、大雪に遇い、士卒は饑凍し、死する者多く、遂に圍みを解いて去る。魏は太子の欽を遣わして蒲板に鎮せしむ。丞相の泰は出でて蒲板に軍し、阜莢に至り、歡が退きて汾を渡るを危機、之を追いて及ばず。十一月，東魏は可朱渾道元を以て并州刺史と為す。

●十二月，魏主は華陰に狩し、大いに將士を享し、丞相の泰は諸將を帥いて之を朝す。萬壽殿を沙苑の北に起こす。

■東魏辛亥（47-29+1=19日），東魏は兼散騎常侍の楊斐を遣わして來聘す。

■〔陳霸先は頭角を現す〕孫問、盧子雄は李賁を討ち、春瘴（春おこる病気、感染症など）方に起こるを以て、秋に至るを待たんと請う。廣州刺史の新渝（吳は新喻縣を立て、安成郡に屬す、喻が正しい）の侯映は許さず、武林の侯咨は又た之を趣す。問等は合浦に至り、死者は什に六七、衆は潰え而して歸る。映は、儋（蕭衍の弟）之子也。武林の侯咨は奏す、

「問及び子雄は賊と交通し、逗留して進まず」

と、敕して廣州に於いて死を賜う。子雄の弟の子略、子烈、主帥の廣陵の杜天合及び弟の僧明、新安の周文育等は子雄之衆を帥いて廣州を攻め、映、咨を殺して、子雄の為に冤を復さんと欲す。西江督護、高要（漢には蒼梧に屬す。梁は高要郡を置く。広東省粵海道高要縣、現・肇慶市高要區）太守の吳興の陳霸先（陳王朝創始者、ここに初登場）は精甲三千を帥いて之を救い、大いに子略等を破り、天合を殺し、僧明、文育を擒とす。霸先は僧明、文育の驍勇が人に過ぎるを以て、之を釋し、以て主帥と為す。詔して霸先を以て直閣將軍と為す。

●魏の丞相の泰の妻の馮翊公主は子の覺を生む。

東魏〔李元忠は僕射より飲酒を愛する〕東魏は光州刺史の李元忠を以て侍中と為す。元忠は要任に處ると雖も、物務を以て懷を干さず、唯だ飲酒して自ら^{たの}娛しむ。丞相の歡は用って僕射と為さんと欲し、世子の澄は其の放達にして常に酔い、（9-175p）委ねるに台閣を以てす可からざるを言う。其の子の播は之を聞き、酒を節せんと請い、元忠は曰く、

「我は言う、僕射と作るは飲酒を^{たの}樂しむに勝たず、爾僕射を愛せば、宜しく飲酒する勿かれ。」

高祖武皇帝+四大同九年（癸亥，543年）

東魏春，正月，壬戌（58-58+1=1日），東魏は大赦し，改元して武定とす。（元嘉曆では1月に閏月あり）

【高仲密の魏投降と波紋】

東魏 **〔高仲密は私怨から反して魏に降る〕** 東魏の御史中尉の高仲密は吏部郎の崔暹^{さいせん}の妹を取り，既に而して之を棄て，是に由りて暹と隙有り。仲密は御史を選任するに，其の親戚郷黨は多く，高澄は奏して改選せしむ。暹は方に澄の寵任する所と為る，仲密は其の己を構えるを疑い，愈々之を恨む。仲密の後妻の李氏は艶にし而して慧なり，澄は見而して之を悦び，李氏は従わず，衣服は皆な裂け，以て仲密に告げ，仲密は益々怨む。尋いで出でて北豫州（虎牢に治す）刺史と為り，陰に外叛を謀る。丞相の歡は之を疑い，鎮城（都督）の奚壽興を遣わして軍事を典らしめ，仲密は但だ民の務めを知る。仲密は置酒して壽興を延き，壯士を伏せ，之を執り，二月，壬申（8+60-57+1=12日），虎牢を以て叛し，魏に降る。魏は仲密を以て侍中、司徒と為す。

東魏 **〔高歡は崔暹を許す〕** 歡は仲密之叛は崔暹に由ると以い，將に之を殺さんとし，高澄は暹を匿い，之が為に固く請い，歡は曰く、

「我が其の命を^{あた}丐えん，須く苦手（必ず鞭刑を与えん）を與えるべし。」

澄は乃ち暹を出し，而して大行台都官郎の陳元康に謂って曰く、

「卿は崔暹をして杖を得使めば，復た相い見る勿かれ。」

元康は之が為に歡に言つて曰く、

「大王は方に天下を以て大將軍に付す，大將軍は一の崔暹有り其の杖を免かるる能わず，父子は尚ほ爾り，況んや它人に於いてをや！」

歡は乃ち之を釋す。

●**東魏** **〔高仲密は高季式を頼って東魏復帰〕** 高季式は永安（周の初めは霍國。後に彘邑。漢は彘県を置き。後漢は改めて永安と曰う。魏の建義元年に永安郡を置き、永安城に治し、晉州に属す。隋は改めて霍邑県を置く。時に李式は晉州刺史を罷め之に成す。山西省河東道霍県、現・臨汾市霍州市）戍に在り，仲密は信を遣りて之に報ず。季式は走りて歡に告げ，歡は之を待すること舊の如し。

●**東魏** **〔洛陽の河橋を巡る攻防、東魏は守る〕** 魏の丞相の泰は諸軍を帥いて以て仲密に應じ，太子の少傅の李遠を以て前驅と為し，洛陽に至り，開府儀同三司の於謹を遣わして柏谷を攻め，之を抜く。三月，壬辰（壬申×、続による、28-27+1=2日），河橋の南城を圍む。東魏の丞相の歡は兵十萬を將いて河北に至り，泰は退きて瀍上に軍し，火船を上流に縦ちて以て河橋を燒く。斛律金は行台郎中の張亮をして小艇百餘を以て長鎖を載せ，火船の將に至らんとするを伺い，釘を以て之を釘せ使め，鎖を引きて岸に向かい，橋は遂に全きを獲たり。

●**東魏** **〔高歡は宇文泰の邙山奇襲を撃破〕** 歡は河を渡り，邙山に據りて陳を為り，進まざる者は數日。泰は輜重を瀍曲（一書に瀍西）に留め，夜，邙山に登り以て歡を襲う。侯騎は歡に白して曰く、

「賊は此を距てること四十餘里，蓐食乾飲し而して來たる。」

歡は曰く、

「自ら當に渴死すべし！」

乃ち陣を正しく（陣を固くしてその疲れ渴くを待つ）して以て之を待つ。戊申（44-27+1=18日），黎明，泰の軍

は**歡**の軍と遇う。東魏の**彭樂**は數千騎を以て右甄と為り、魏軍之北垂を冲（続は衝）き、向かう所奔潰し、遂に魏の營に馳せ入る。人は、

「**彭樂**が叛す」

と告げ、**歡**は甚だ怒る。俄に而して西北に塵起こり、(9-176p) **樂**の使いは來たりて捷を告げ、魏の侍中、開府儀同三司、大都督の臨洮王の**東**、蜀郡王の**榮宗**、江夏王の**升**、巨鹿王の**闡**、譙郡王の**亮**、詹事の**趙善**及び督將僚佐四十八人を虜とす。諸將は勝ちに乗りて魏を撃ち、大いに之を破り、斬首は三萬餘級なり。

●**東魏** **宇文泰**は逆襲して**高歡**危機 **歡**は**彭樂**をして**泰**を追わしめ、**泰**は窘しみ、**樂**に謂って曰く、
「汝は**彭樂**に非ざる邪？癡男子！今日我無ければ、明日豈に汝有らん邪！何ぞ急に營に還りて、汝の金寶を収めざる！」

樂は其の言に従い、**泰**の金帶一囊を獲て以て歸り、**歡**に言つて曰く、

「**黑獺**は刃を漏れ、膽を破れり矣！」

歡は其の勝つを喜ぶと雖も而るに其の**泰**を失うを怒り、諸を地に伏せ令め、親ら其の頭を^{つか}摔み（髪を持つ）、^{しきり}連に之を頓し、並せて數むるに沙苑之敗（前卷三年にあり）を以てし、刃を舉げて將に下さんとする者三たび、**噤齟**（切齒して怒る）すること良く久しくす。**樂**は曰く、

「五千騎を乞いて、復た王の為に之を取らん。」

歡は曰く、

「汝は之を縦すは何の意ぞや？而るに復た取らんと言う邪！」

命じて絹三千匹を取り**樂**の背を^{あつ}壓せしめ、因りて以て之を賜う。明くる日、復た戦い、**泰**は中軍と為り、中山公の**趙貴**は左軍と為り、領軍の**若干惠**（若干の先は魏と俱に起こり、国を以て姓とする）等は右軍と為る。中軍、右軍は東魏を合撃し、大いに之を破り、悉く其の歩卒を俘とす。**歡**は馬を失い、**赫連陽順**は馬を下りて以て**歡**に授ける。**歡**は馬に上りて走り、従う者は歩騎七人なり、追兵は至り、親信の都督の**尉興慶**は曰く、
「王は速に去れ、**興慶**は腰に百箭有り、百人を殺すに足る。」

歡は曰く、

「事濟らば、爾を以て懷州（天安二年に河内に置く州。太和八年に罷む。天兵初めまた置き、河内・武徳を領す）刺史と為さん。若し死すれば、爾の子を用いん！」

興慶は曰く、

「兄は小（続は少）なり、願わくは兄を用いん！」

歡は之を許す。**興慶**は拒み戦い、矢盡き而して死す。

●**東魏** **高歡**は九死に一生を得る **東魏**の軍士の逃げて魏に奔る者有り、告げるに**歡**の所在を以てす、**泰**は勇敢なるもの三千人を募り、皆な短兵を執り、大都督の**賀拔勝**に配して以て之を攻めしむ。**勝**は**歡**を行間に識り、槊を執り十三騎と與に之を逐い、馳せること數里、槊刃は及ぶに垂々とし、因りて之を字して曰く、

「**賀六渾**、**賀拔破胡**は必ず汝を殺さん！」

歡は氣は殆んど絶えんとし、河州（時に西魏の境に属す。東魏は劉洪徽をして遙かにこれを領せしむ）刺史の**劉洪徽**は傍より**勝**を射、其の二騎に^あ中で、武衛將軍の**段韶**は**勝**の馬を射、之を斃す。副馬（替え馬）の至る比おい、**歡**は已に逃げ去る。**勝**は歎じて曰く、

「今日弓矢を執らざるは、天也！」

魏の南郢州（北遂安・馮翊・江夏・香山・永安・新平・宜民）刺史の**耿令貴**は、大呼して、獨り敵中に入り、鋒刃は

亂下し、人は皆な已に死せりと謂い、俄に刀を奮い而して還る。是くの如く數四、令貴の前に当たる者は死傷相い繼ぐ。乃ち左右に謂って曰く、

「吾は豈に人を殺すを楽しまんや！壯士賊を除くは、爾らざるを得ず。若し賊を殺す能わず、又た賊の傷つく所と為らざれば、何ぞ逐坐の人（当時の文墨を持して議論する者を指す。但だ能く相随遂し、坐談して坐稷するなり）に異ならん也！」

●**東魏** **〔東魏の逆襲、宇文泰は關中に撤退成功〕** 左軍の趙貴等の五將は戦いて利あらず、東魏の兵は復た振るう。泰は與に戦い、又た利あらず。會々日は暮れ、魏兵は遂に遁げる、東魏の兵は之を追う。獨孤信、於謹は散卒を収めて後ろより之を撃ち、追兵は驚擾し、魏の諸軍は是に由り全くするを得る。若於惠は夜引いて去り、東魏の兵は（9-177p）之を追之う。惠は徐に馬を下り、顧みて廚人に命じて食を營ましめ、食畢わり、左右に謂って曰く、

「長安に死すると、此の中に死すると、以て異なる有り乎？」

乃ち旗を建て角を鳴らし、散卒を収めて徐に還る。追騎は伏兵有るを疑い、敢えて逼らず。泰は遂に關に入り、渭上に屯す。

●**東魏** **〔高歡は宇文泰を追撃せず〕** 歡は進みて陝に至り、泰は開府儀同三司の達奚武等をして之を拒ま使む。行台郎中の封子繪は歡に言つて曰く、

「東西を混壹するは、正に今日に在り。昔魏の太祖（67 卷漢の獻帝建安 20 年）は漢中を平らげ、勝ちに乗じて巴、蜀を取らず、失は遲疑に在り、後悔は及ぶ無し。願わくは大王は以て疑いと為さざれ。」

歡は深く之を然りとし、諸將を集めて進止を議す、鹹な以為く、

「野に青草無く、人馬は疲れ瘦せ、遠く追う可からず。」

陳元康は曰く、

「兩雄は交々争い、歲月は已に久しく。今幸いに而して大捷し、天は我に授ける也、時は失う可からず、當に勝ちに乗りて之を追うべし。」

歡は曰く、

「若し伏兵に遇えば、孤は何を以て濟わん？」

元康は曰く、

「王は前に沙苑にて利を失い、彼は尚ほ伏無し。今奔敗すること此くの若し、何ぞ能く遠謀せんや！若し捨て而して追わざれば、必ず後患と成さん。」

歡は従わず、劉豐生をして數千騎を將いて泰を追わ使め、遂に東に歸る。

●**東魏** **〔王思政は恆農防禦体制〕** 泰は王思政を玉壁に召し、將に虎牢に鎮せ使めんとし、未だ至らず而して泰は敗れ、乃ち恆農を守ら使む。思政は入城し、開門せ令め衣を解き而して臥し、將士を慰勉し、畏るるに足らざるを示す。後數日にして、劉豐生は城下に至り、之を憚り、敢えて進まず、軍を引いて還る。思政は乃ち城郭を修め、樓櫓を起こし、農田を營み、芻粟を積み、是に由りて恆農は始めて守禦之備え有り。

●**〔魏の諸將に功無し〕** 丞相の泰は自ら貶するを求め、魏主は許さず。是の役なる也、魏の諸將は皆な功無く、唯だ耿令貴は太子の武衛率（魏は太子の武衛將軍を武衛卒となす）の王胡仁、都督の王文達と力戦して功多し。泰は雍、岐、北雍三州を以て之に授けんと欲し、州の優劣有るを以て、籌（くじ）を探りて之を取ら使む。仍つて胡仁に名勇を、令貴に名豪を、文達に名信を賜い、用つて其の功を彰す。是に於いて廣く關、隴の豪右を募り以て軍旅を増す。

●**東魏** **〔高隆之は高仲密の屬黨を慰撫〕** 高仲密之將に叛かんとする也、陰に人を遣わして冀州の豪傑（高乾兄弟はもと兵を信都に起こす。仲密は故にその豪傑を扇動し、応を河北に為さしむ）を扇動し、内應を為さしむ、東魏は**高隆之**を遣わして驛を馳せて慰撫せしむ、是に由りて安じるを得る。**高澄**は密に書して**隆之**に與えて曰く、「仲密の枝黨の之と俱に西する者は、宜しく悉く其の家屬を収め、以て將來を懲らすべし。」**隆之**は以為えらく、恩旨は既に行われ、理は追改する無し、若し復た治を収めれば、民に不信を示すなり。脱し驚擾を致せば、虧ける所細ならずと、乃ち丞相の**歡**に啟し而して之を罷む。

■太子の詹事の**謝舉**を以て尚書僕射と為す。

■**夏**、**四月**、林邑王は**李賁**を攻め、**賁**の將の**范修**は林邑を九德（呉は九眞を分けて九德郡を立てる。安南の乂安など）に破る。

● **〔趙昶はよく氐酋を鎮撫〕** 清水（漢の天水郡の県、晉は略陽郡に属す、後魏は清水郡を置く。甘肅省渭川道清水県、現・天水市清水県）の氐酋の**李鼠仁**は、魏之敗れるに乗りて、險に據りて亂を作す。隴右大都督の**獨孤信**は屢々軍を遣わして（9-178p）之を撃ち、克たず。丞相の**泰**は典簽の天水の**趙昶**を遣わして往きて之を諭さしめ、諸々の酋長は聚まり議し、或は従い或は否とす。其の従わざる者は刃を**昶**に加えんと欲し、**昶**は神色自若たり、辭氣は逾々厲しく、**鼠仁**は感悟し、遂に相い帥いて降る。氐酋の**梁道顯**は叛し、**泰**は復た**昶**を遣わして諭して之を降らしめ、其の豪帥四十餘人並びに部落を華州に徙し、**泰**は即ち**昶**を以て都督と為し、之を領せしむ。

●**東魏** **〔侯景は虎牢を奸計により下す〕** **泰**は謀をして潜に虎牢に入らしめ、守將の**魏光**をして固く守らしむ。**侯景**は之を獲り、其の書を改めて云わく、「宜しく速かに去るべし。」

謀を縦ちて入城せしめ、**光**は宵に遁げる。**景**は**高仲密**の妻子を獲りて鄴に送り、北豫、洛の二州は復た東魏に入る。**五月**、壬辰（28-26+1=3日）、東魏は虎牢を克復するを以て、死罪已下の囚を降し、唯だ**高仲密**の家を赦さず。丞相の**歡**は**高乾**を以て義勳有り（兵を信都に起こして高歡を奉じる）、**高昂**は王事に死し（河陽に戦死）、**季式**は先ず自ら告げる（先に永安成より奔りて高歡に告げる）を以て、皆な之が為に請いて、其の從坐を免ず。**仲密**の妻の**李氏**は當に死せんとし、**高澄**は盛服して之を見て、曰く、（胡三省曰く、高澄は色を漁するを以て、宗勳をして外に叛き、其の父をして幾ど兵に死せんとせしめ、惡を長じて俊めず、街服して以てこれを誘い納れる。他日、楊燕の禍、叔姪相屠るは、讐、李氏に由る。豈に天ならんやと）

「今日は何如？」

李氏は默然とし、遂に之を納れる。乙未（31-26+1=6日）、**侯景**を以て司空と為す。（虎牢陥落の功績による）

●**秋**、**七月**、魏は大赦す。**王盟**を以て太傅と為し、廣平王の**贊**を司空と為す。

東魏 **八月**、乙丑（1+60-54+1=8日）、東魏は汾州刺史の**斛律金**を以て大司馬と為す。

東魏 ■東魏は兼散騎常侍の**李渾**等を遣わして來聘す。

東魏 **〔東魏は長城築城を中止〕** **冬**、**十一月**、甲午（30-23+1=8日）、**東魏主**は西山（鄴には西山は無し、邯鄲の西山なり）に狩す。乙巳（41-23+1=19日）、宮に還る。**高澄**は啟して侍中を解き、**東魏主**は其の弟の并州刺史の太原公に**洋**を以て之に代わらしむ。丞相の**歡**は長城を肆州（山西省雁門道忻県、現・忻州市）の北山に築き、西は馬陵（東魏が戍を置く、山西省雁門道靜樂県の北、現・忻州市靜樂県）より、東は土垠（代州崞県、現・忻州市原平市）

に至る。四十日にして罷む。

● **「裴俠は獨立君と為す」** 魏の諸牧守は共に丞相の**泰**に謁す、**泰**は河北（河北郡は陝州に属す、もとは漢晉の河東郡河北県、山西省平陸県東北、現・運城市平陸県）太守の**裴俠**に命じて別に立てしめ、諸牧守は謂って曰く、

「**裴俠**は清慎にして奉公し、天下の最爲り。**俠**の如き者有れば、與に俱に立つ可し！」
衆は默然とし、敢えて應じる者無し。**泰**は乃ち厚く**俠**に賜い、朝野は歎服し、號して「獨立君」と為す。

高祖武皇帝+四大同十年（甲子，544年）

■ **春，正月**，**李賁**は自ら**越帝**を稱し、百官を置き、改元して天徳とす。

東魏 **三月**，癸巳（29-21+1=9日），東魏の丞相の**歡**は冀、定二州を巡行し、河北の戸口の損益を校し、因りて鄴に朝す。

■ **甲午**（30-21+1=10日），上は**蘭陵**（晉は東南海郡を京口に置き、蘭陵郡を延陵に建てる。延陵は江蘇省金陵道丹陽県の南、現・鎮江市丹陽市延陵鎮）に幸し、**建寧陵**（梁紀には建陵、皇妣張皇后の陵）を謁し、**太子**をして入りて宮城を守ら使む。**辛丑**（37-21+1=17日），**脩陵**に謁す（皇后郗氏の陵）。（9-179p）

東魏 **丙午**（42-21+1=22日），東魏は開府儀同三司の**孫騰**を以て太保と為す。

■ **「蕭衍は京口の古老を慰勞」** **己酉**（45-21+1=25日），上は京口城（山に因りて壘を為し、江の沿いて境をなす。爾雅に丘絶高なるを京と曰ふ。江蘇省金陵道丹徒県、現・鎮江市京口区）の**北固樓**（北固山は府北一里にあり、嶺下に廻り長江に臨む。蔡謨は樓をその上に起こし、以て軍實を置く）に幸し、名を北顧に更める。**庚戌**（46-21+1=26日），**回賓亭**に幸し、郷里の故老及び經る所の近縣の迎候する者を宴し、少長數千人、各々錢二千を^{たま}賚う。

【高歡の篡奪意志明瞭に】

東魏 **壬子**（48-21+1=28），東魏は**高澄**を以て大將軍と為し、中書監を領せしめ、**元弼**を録尚書事と為し、左僕射の**司馬子如**を尚書令と為し、侍中の**高洋**を左僕射と為す。

東魏 **「高歡は長男の高澄に権力集中」** 丞相の**歡**は多く晉陽に在り、**孫騰**、**司馬子如**、**高岳**、**高隆之**は、皆な**歡**之親舊なり、委ねるに朝政を以てし、鄴中は之を四貴と謂い、其の權勢は中外を熏灼し、率る専恣驕貪多し。**歡**は其の權を損奪せんと欲し、故に**澄**を以て大將軍と為し、中書監を領せしめ、門下の機事（門下省の衆事は侍中・給事中などを掌る。高歡がこれを移すは澄の權を重くする所以）を移して總て中書に歸せしめ、文武の賞罰は皆な**澄**に稟せしむ。**孫騰**は**澄**を見、肯えて敬を盡くさず、**澄**は左右を叱し牽きて床より下し、築くに刀環を以てし、之を門外に立たしむ。太原公の**洋**は**澄**の前に於いて**高隆之**（もと洛陽の人、高歡は命じて弟と為す、故に洋は叔父と呼ぶ）を拜し、呼びて叔父と為し、**澄**は怒りて之を罵す。**歡**は群公に謂って曰く、

「兒子は浸く長ぜり、公は宜しく之を避くべし。」

是に於いて公卿以下は、**澄**を見るに^{しやうく}聳懼せざるは無し。**庫狄干**は、**澄**の姑之婿也、定州より來たりて謁す、門外に立つこと、三日乃ち見ゆるを得たり。

東魏 **「高澄は崔季舒を帝の側近に送り込む」** **澄**は腹心を東魏主の左右に置かんと欲し、中兵參軍の**崔季舒**を擢んで中書侍郎と為す。**澄**は書を帝に進め、諫請する所有る毎に、或は文辭繁雜なり、**季舒**は輒ち修飾して之を通ず。帝が**澄**父子に報じる之語は、常に**季舒**と之を論じ、曰く、

「崔中書は、我が乳母也。」

季舒は、挺之從子也。

■夏，四月，乙卯（51-51+1=1日），上は蘭陵より還る。

●五月，甲申（20-20+1=1日）朔，魏の丞相の泰は長安に朝す。

■東魏甲午（30-20+1=11日），東魏は散騎常侍の魏季景を遣わして來聘す。季景は，收之族叔也。

■尚書令の何敬容の妾の弟は官米を盗み，書を以て領軍の河東王の譽に屬す。丁酉（33-20+1=14日），敬容は坐して免官される。

東魏東魏の廣陽王の湛は卒す。

●魏の琅邪貞獻公の賀拔勝の諸子の東に在る者，丞相の歡は盡く之を殺し，勝は憤恨して疾を發し而して卒す。丞相の泰は常に人に謂って曰く、

「諸將は敵に對して神色皆な動く，唯だ賀拔公は陳に臨むこと平時の如し，真に大勇也！」

●「魏の諸制度整備」秋，七月，魏は權衡度量を更め，尚書の蘇綽に命じて三十六條之制（24条と新12条合計で36条、前卷大同元年にあり）を損益し，總べて五卷と為し，之を頒行す。賢才を搜簡して牧守・令長と為し，皆な新制に依り而して焉を遣わす。數年之間，百姓は之を便とす。（9-180p）

●東魏「高澄は崔暹を特に待遇」魏は正光より以後，政刑は弛縱し，位に在るものは多く貪汚す。丞相の歡は啟して司州の中從事の宋游道を以て御史中尉と為し，澄は固く請いて吏部郎の崔暹を以て之と為し，游道を以て尚書左丞と為す。澄は暹、游道に謂って曰く、

「卿ら一人は南台（御史台、宮闕の南にあり）に處り，一人は北省（尚書省、宮闕の北にあり）に處り，當に天下をして肅然たらしむべし。」

暹は畢義雲等を選びて御史と為し，時に人を得たりと稱す。義雲は，衆敬（宋の明帝の初め、畢衆敬は魏に降る）之曾孫也。澄は暹に威勢を假さんと欲し，諸公が坐に在るとき，暹をして後れて至り，名を通じ令め，高視徐歩し，兩人は裾を挈り而して入る。澄は庭を分けて對揖し，暹は譲らず而して坐し，觴は再び行り，即ち辭去す。澄は之を留めて食せしめ，暹は曰く、

「適々敕を受け台に在りて檢校す。」

遂に食を待たず而して去り，澄は階を降りて之を送る。它日，澄は諸公と出で，東山（鄴の游宴の地）に之き，道に於いて暹に遇い，前驅は赤棒の撃つ所と為り，澄は馬を回して之を避ける。

東魏「高歡の旧友の司馬子如らへの弾圧開始」尚書令の司馬子如是丞相の歡の故人なるを以て，重任に當たり，意氣は自ら高く，太師の咸陽王の坦と驢を貪りて厭く無し。暹は前後に子如、坦及び并州刺史の可朱渾道元等の罪狀を彈し，筆を極めざる無し。宋游道も亦た子如、坦及び太保の孫騰、司徒の高隆之、司空の侯景、尚書の元羨等を劾し。澄は子如を収めて獄に繋ぎ，一宿し，發（続は髪）は盡く白くなり，辭に曰く、

「司馬子如は夏州より杖を策きて相王に投じ（中大通四年に高歡は爾朱氏を破り、子如を南岐州より召す。蓋し雍州華州は路險阻なりて道を夏州に取りて東に帰る），王は露車一乘，豸犢（曲角のめうし）牛犢を給し，犢は道に在りて死し，唯だ豸角のみ存し，此の外は皆な之を人に取る。」

丞相の歡は書を以て澄に敕して曰く、

「司馬令は，吾之故舊なり，汝は宜しく之を寬にすべし。」

澄は馬を行街に駐め，子如を出し，其の鎖を脱す。子如は懼れて曰く、

「事を作すに非ざる邪？」（事をなすとは、澄がこれを殺すという意味）

八月，癸酉（9+60-49+1=21日），子如の官爵を削る。九月，甲申（30-18+1=13日），濟陰王の暉業を以

て太尉と為す。太師の咸陽王の坦は王を以て第に還る、元羨等は皆な官を免ぜられ、其の餘の死黜する者は甚だ衆し。之久しく、歡は子如を見、其の憔悴を哀れみ、膝を以て其の首を承け、親ら為に虱を擇び、酒百瓶、羊五百口、米五百石を賜わる。(胡三省曰く、高澄はこれを縛するに公法を以てし、高歡はこれに接するに旧恩を以てす。此れ其の父子は勲貴を駕御するの術なり)

東魏 **〔宋游道は高澄に従い并州に行く〕** 高澄は諸貴に對して極言して崔暹を褒美し、且つ之を戒屬す。丞相の歡は書して鄴下の諸貴に與えて曰く、

「崔暹は憲台に居り、咸陽王、司馬令は皆な吾の布衣之舊にして、尊貴親暱は、二人に過ぎたるは無し、同時に罪を獲、吾は救う能わず、諸君は其れ之を慎しめ！」

宋游道は奏して尚書の違失數百條を駁して、省中の豪吏の王儒之徒並びに之を鞭斥し、令、僕已下は皆な目を側つ。高隆之は、

「游道は不臣之言有り、罪は死に當たる」

と誣す。給事黃門侍郎の楊愔は曰く、

「狗を畜^{やしな}うは吠えるを求めるなり。今數々吠えるを以て之を殺せば、恐らくは將來は復た吠狗無からん。」

游道は竟に坐して除名される。澄は游道に謂って曰く、

「卿は早く我に従いて并州に向かえ、爾らざれば、彼は經略して卿を殺さん。」

游道は澄に従いて (9-181p) 晉陽に至り、以て大行台吏部 (吏部郎とすべし) と為す。

■己丑 (25-18+1=8 日)、大赦す。

東魏 **〔戦乱後に東魏は疲弊〕** 東魏は喪亂之後にして、戸口は實を失い、徭賦は均しからずを以て、冬、十月、丁巳 (53-48+1=6 日)、太保の孫騰、大司徒の高隆之を以て括戸大使と為し、諸州を分行せしむ、無籍之戸六十餘萬を得、僑居する者は皆な勒して本屬に還す。十一月、甲申 (30-17+1=14 日)、高隆之を以て尚書事を錄せしめ、前大司馬の婁昭を以て司徒と為す。

東魏 庚子 (36-17+1=20 日)、東魏主は園丘を祀る。

東魏 東魏の丞相の歡は山胡 (汾州の山中の雜胡) を襲撃し、之を破り、萬餘戸を俘とし、諸州に分配す。

東魏 ■ **〔魏收と蕭衍の阿吽の呼吸〕** 是の歲、東魏は散騎常侍の魏收を以て中書侍郎を兼ね、國史 (魏書) を修めしむ。梁、魏通好するより、魏書は毎に云う、

「想うに彼の境内は寧靜ならん、此の率土は安和なり。」

上は復書して、「彼」の字を去り而して已む。收は始めて定めて書して云う、

「想うに境内は清晏ならん、今萬里は安和なり。」

上も亦た之に效う。

令和 5 年 2 月 13 日 11493 文字

令和 5 年 2 月 26 日 24310 文字